

マタイ5章13-16節 「地の塩、世の光」

1A 証しの力

2A 地の塩

1B 墮落する地

2B 塩の働き

1C 味付け

2C 腐敗の防止

3B 塩気を無くした塩

1C 不純物

2C 実を結ばない枝

3A 世の光

1B 暗闇の中の光

1C 悪い者の支配

2C 神の介入

2B 光の働き

1C イエスについてくる者

2C 闇の行いの暴露

3C 救い主の啓示

3B 隠れない光

1C 恥としない福音

2C 神への栄光

3C 神からの報い

本文

私たちの山上の垂訓シリーズの学びは、ついに八福、つまり八つの幸いを終えました。そして今日は5章13-16節を見ます。ここも、とても有名なイエス様の言葉、「地の塩、世の光」です。

13 あなたがたは地の塩です。もし塩が塩気をなくしたら、何によって塩気をつけるのでしょうか。もう何の役にも立たず、外に投げ捨てられ、人々に踏みつけられるだけです。14 あなたがたは世の光です。山の上にある町は隠れることができません。15 また、明かりをともして灯の下に置いたりしません。燭台の上に置きます。そうすれば、家にいるすべての人を照らします。16 このように、あなたがたの光を人々の前で輝かせなさい。人々があなたがたの良い行いを見て、天におられるあなたがたの父をあがめるようになるためです。

1A 証しの力

このイエス様の言葉は、「世界に対して、キリストの弟子となった者たちが証しを立てる力を持っている」ということです。心の貧しい人は幸いです、というところから始まり、主に会ったという私たちの内で起こった神の働きが、次第に外に出てきています。最後は平和を造る者は幸いです、となりました。ところが、世は義のゆえに迫害します。キリストにある平和をキリスト者は造るのですが、キリストに服従したくないと思っている人にとっては、煙たい存在でしかありません。けれども、迫害を受けた時は幸いだと思いなさいとイエス様は言われました。

けれども、それは一方的に受動的に、迫害を耐え忍ぶものではありません。むしろ、迫害を受けながら、なおのこと世にいる人々が神をあがめるようになっていくのだというのが、イエス様が言われていることです。そして聖書の至るところで、それを見ることができます。イスラエルの民がエジプトのファラオに酷使されたことによって、かえって世界にイスラエルの神の救いに偉大さが明らかにされました。イエス様が迫害を受け、死なれたことによって、そのよみがえりの力が明らかにされて、世界中にその御名が宣べ伝えられるようになっていきます。新約聖書の使徒行伝や使徒たちの手紙には、既に初代教会が迫害と困難の中にあることを伝えていますが、むしろその中で、主のみことばが伝えられていっていることを教えています。

教会の歴史、いや、今の世界の教会を見れば、キリスト者が困難の中にあるから、信仰の真価が試され、福音のすばらしさが明らかになり、人々は驚き、神をあがめるのです。皆さんは、イスラム国が人々を斬首する事件が多発したことを思い出せるかもしれません。エジプト人のコプト教徒の若者たちが、リビアの海岸で 21 人が斬首された動画が流れました。それだけではありません、エジプト人のコプト教徒は多くの嫌がらせや迫害を受けています。けれども、あることが起こりました。エジプトのアレキサンドリアという町にある教会で、イスラム国による自爆テロが起こりました。残された人々が、「イスラム国の人々を赦します、夫は天に行くことができたのです。」とテレビで答えました。その番組の司会が言葉を失いました。そして、こう言ったのです。

エジプトのコプト教徒は、鉄で出来ている！

エジプトのキリスト者は数百年もの間(注:千数百年ことでしょう)、
多くの虐殺と災難を耐えてきています。

エジプトのキリスト者は、我が国を深く愛しています。

我が国のため、全てを耐え忍んでいます。

これだけ圧倒的な、偉大な赦しがあるでしょうか！

もし敵が、これだけの大きな赦しを

彼らに持っていることを知っているなら、

信じる事が出来ないでしょう。

もし彼が私の父であれば、絶対にこんなことは言えません。

この人たちはこんなにも赦しを持っているのです、それが彼らの信仰であり、宗教的確信なのです。¹

この出来事で、エジプト中の人々が、大勢のイスラム教徒の人々が驚愕し、神がおられることを証したのです。自爆テロで夫を失ったという悲しみを通して、最も効果的な証しを立てることができました。

2A 地の塩

これが前回のお話しでしたが、「あなたがたは地の塩です。」「あなたがたは世の光です。」の言葉をじっくりと見ていきましょう。興味深いことに、イエス様は「あなたがたは」という言葉をかなり強く言っておられます。「あなたがたこそが、地の塩です」「あなたがたこそが、世の光です」と言われています。世界には、他に世に対して良い影響を与えることが語られていますが、「いや、違います、あなたがたこそが地の塩、世の光です」と主は言われているのです。

1B 墮落する地

まず、「地の塩」から考えてみます。「地」というのは、この世界を天と対比して語られている言葉でしょう。イエス様が、天の御国を語られた後で「地」を語られているからです。聖書には、天には神が住んでおられ、それに対して人が住んでいて、他の生き物が住んでいる地を対比させています。かつては、そこには調和がありました。エデンの園にその調和を見ることができます。けれども、そこでアダムが罪を犯したので、「創 3:17 大地は、あなたのゆえにのろわれる。」と神は宣言されました。

すなわち、地というのは、人の罪によってその腐敗が進んでいってしまったという言い方ができます。その典型が、ノアの時代の地上での人々の姿でした。「創 6:5-6 【主】は、地上に人の悪が増大し、その心に凶悪なことがみな、いつも悪に傾くのをご覧になった。それで【主】は、地上に人を造ったことを悔やみ、心を痛められた。」そしてアブラハムの時代、「主は硫黄と火を、天から、主のもとからソドムとゴモラの上に降らせられた。」とあり、「まるでかまどの煙のように、その地から煙が立ち上っていた。」とあり、天からの火の裁きで、地が荒廃したことが描かれています（創 19章）。そして黙示録を見れば、天からの火で、悪と不正に満ちた地上が裁かれている姿を見ます。ですから、地上は墮落して、腐敗して、天におられる神によって滅ぼされてしまわないといけないうようなところとして描かれています。

そして、それは私たちの霊的な生活でも同じです。ヤコブが、地上の知恵と上からの知恵を対比させています。「3:14-17 しかし、もしあなたがたの心の中に、苦々しいねたみや利己的な思いがあるなら、自慢したり、真理に逆らって偽ったりするのはやめなさい。そのような知恵は上から来た

¹ <http://www.logos-ministries.org/blog/?p=7963>

ものではなく、地上のもの、肉的で悪魔的なものです。ねたみや利己的な思いのあるところには、秩序の乱れや、あらゆる邪悪な行いがあるからです。しかし、上からの知恵は、まず第一に清いものです。それから、平和で、優しく、協調性があり、あわれみと良い実に満ち、偏見がなく、偽善もありません。」

2B 塩の働き

このような地上に対して、イエス様は「あなたがたこそが塩なのだ」と言われています。

1C 味付け

塩と言えば、私たちが思い浮かぶのは「味付け」です。味のないところに味を付けます。旧約では穀物の捧げ物に塩を味付けをしなさい、それは塩の契約であるということが書かれています(レビ 2:13)。そしてイエス様が、競争心をもって他者を排除したり、互いに比較していた弟子たちに対して、「マルコ 9:50 あなたがたは自分自身のうちに塩気を保ち、互いに平和に過ごしなさい。」と言われました。そしてパウロがコロサイ人への手紙で、「4:6 あなたがたのことばが、いつも親切で、塩味の効いたものであるようにしなさい。」とあります。神さまの良さを自分のうちに保ち、それをもって他者に語りかけ、恵みを与え、他者と平和の関係を持ちなさいという意味合いで使われています。

2C 腐敗の防止

けれども、当時の塩は今よりももっと希少なものであり、高価なものでした。そして主に使われていたのは、「腐敗防止」でありました。冷蔵庫がありません、肉は保存食にするために塩を使い、菌によって腐食が進行するのを遅くさせます。ですからイエス様がここで語られているのは、「あなたがたこそが、地における腐敗が進むのを遅らせているのだ、ということなのです。」

ここで大事なのは、「あなたがたが地の塩となるのだ」とイエス様が言われなかったことです。「地の塩です」と断言されていることです。ご自身がイエスさまを自分の心に受け入れ、この方を主としてあがめるようになった時点で、ご自身に与えられた新しい心に、御霊が働いておられます。その時にすでに、腐敗して滅びゆく地に対して、それを遅くさせる役割を果たしているのです。自分で意図的に頑張らなくとも、そのようにされていると言ってよいのです。キリスト者がいると、それだけで煙たがられる時もありますが、むしろ「気になって仕方がない」という現象もしばしば起こります。そしてその中で、強烈に引き付けられる人々が起こり、人々の魂の中に霊的な渴きを呼び起こします。それで、主ご自身に引き寄せられる人々も出てくるのです。

聖書の中では、地の塩となっている神の人々の姿がたくさん出て来ます。先ほど言及した、ノアですが、神は 120 年の猶予を、水の裁きの前に与えておられたことが分かります。ペテロ第二によると、ノアはその時代の人々に義を説いていたことが書かれています。水によって消し去られる

時が、ノアが存在によって引き止められていたとも言えるのです。ソドムとゴモラも、御使いがその中にいるロトとその家族が出て行くまでは、火と硫黄による裁きを引き止めざるを得ませんでした。

イスラエルの王たちの歴史の中で、善い王が出てきたことによって、神の裁きが引き伸ばされたことが書かれています。ヨシヤという王が、律法の書が読まれるのを聞いて、衣を裂いて衝撃を受け、嘆き悲しみました。イスラエルの民が完全に神に背いていることが、はっきりとわかったからです。すると女預言者フルダは、神の怒りは燃え上がっているが、「Ⅱ列 22:20 あなたは平安のうちに自分の墓に集められる。あなたは自分の目で、わたしがこの場所にもたらず、すべてのわざわいを見ることはない。」と預言しました。確かにヨシヤが存命中は、神の裁きは下りませんでした。彼が亡くなってから、その息子たちによって腐敗がぶり返し、それで神がエルサレムをバビロンによって滅ぼしたことが書かれています。

そして、キリスト教会が広がって行ったところでは、キリスト者の働きにより、その社会によって大切なもの、希望が与えられたことがたくさんあります。例えば、ローマ社会は、墮胎は当たり前でありました。むしろ奨励されていました、望まない妊娠は産んだ後にすぐに殺され、赤ん坊がごみのように捨てられました。エペソの遺跡には、そういったところが残っています。そこで、そのゴミ捨て場ようになっていたところで、拾いに来ていた人たちがいました。そうです、キリスト者たちです。今でも、「赤ちゃんポスト」など、キリスト教の病院が積極的に赤ん坊を救う働きの最先端にいます。また、疫病が流行った時に、ローマではそれが恐ろしい感染力を持っているので、みなが患者を避けていました。また神々から罰を受けているともみなしていました。そこに果敢に看病したのはキリスト者です。自らも感染して死ぬかもしれないのに、それでも助けました。それで、キリスト者のいるところやその周辺では、死亡率が減ったという統計もあります。

そのようにして地の塩であり続け、世に対して、不法の力が働くのを抑えているのです。世の終わりに、不法の者が現れると預言されています。世界に荒廃をもたらす人物が、悪魔の力を抱いて現れることが書かれています。パウロはこう書いています。「Ⅱテサ 2:6-7 不法の者がその定められた時に現れるようにと、今はその者を引き止めているものがあることを、あなたがたは知っています。不法の秘密はすでに働いています。ただし、秘密であるのは、今引き止めている者が取り除かれる時までのことです。」このようにして、キリスト者の存在が不法の人が現れるのを引き止める力となっているのです。

3B 塩気を無くした塩

けれども主は、「もし塩が塩気をなくしたら、何によって塩気をつけるのでしょうか。もう何の役にも立たず、外に投げ捨てられ、人々に踏みつけられるだけです。」とも言われました。塩が塩気を無くすとは、私たちは想像できませんが、当時の塩は不純物も混じった形での塩しかありませんでした。したがって、塩化ナトリウムが無くなってしまった、不純物だけの塩も存在したのです。そうし

た塩は、他の用途に使うことができません。ですから、道路に舗装するだけの材料としかありませんでした。それで、「人々に踏みつけられるだけ」とイエス様は云われます。

1C 不純物

私たちキリスト者は、自分たちに主にある塩気があることを自分たちが気づいていないことがあります。むしろ、無いのではないか？と思う時のほうが多いと思います。例えば親切にすることについて言えば、自分よりも親切な人たちはたくさんいます。心の病を持っている人たちに対して、教会はあたかも心理的カウンセリングや精神医学のほうに解答があるような気がします。社会問題についても、政治や社会活動のほうに解答があるような気がするのです。そうすると、自分たちの役割は一体何なのか？とって、世にあるものに自分たちも調子を合わせることによって、人々に近づこうとするのです。

そもそもが不純物の入っている私たちに、福音こそが私たちを救う神の力だという塩気を取ってしまうという愚かなことをしてしまいます。古臭く見える、いつも聞いている福音にこそ、社会の最も複雑な問題、政治も経済も、教育もどんなものも解決できない問題を打破する新鮮な力を持っているのです。私たちの取り得は、イエス様だけです。そしてイエス様がおられたら全て満たされます。「コロ 2:3-4 このキリストのうちに、知恵と知識の宝がすべて隠されています。」それなのに、世にあるものを真似ようとしたらどうなるでしょうか？世にあるものよりもまずもって、時代遅れです。「これをやれば、人々に訴えることができる」と思ってやり始めたことは、10年も20年もずっと前にとっくに世が行っている事であり、すでにそれも役に立たないと思われていることなのです。

2C 実を結ばない枝

イエス様に結ばれていないことで、私たちが何の役に立たなくなる喩えとして、イエス様はぶどうの木を挙げられました。「ヨハ 15:5-6 わたしはぶどうの木、あなたがたは枝です。人がわたしにとどまり、わたしもその人にとどまっているなら、その人は多くの実を結びます。わたしを離れては、あなたがたは何もすることができないのです。わたしにとどまっていなければ、その人は枝のように投げ捨てられて枯れます。人々がそれを集めて火に投げ込むので、燃えてしまいます。」枝もそうですね、ぶどうの実を結ばせること以外、その枝だけでしたら、他に役に立ちません。火のための燃料にしかありません。私たちはとにかく、自分が何か実を結んでいるかのように錯覚してしまいますが、キリストから離れては何もないことを知らないといけません。

3A 世の光

1B 暗闇の中の光

次に、「世の光」について考えてみたいと思います。聖書には初めから終わりまで、「闇」と「光」の対比が出て来ます。創世記 1 章 2-3 節、「地は茫漠として何もなく、闇が大水の面の上にあり、神の霊がその水の面を動いていた。神は仰せられた。『光、あれ。』すると光があった。」そして、黙

示録 21 章には、天にエルサレムには神と子羊が光となっていて、夜がそこにはないことが書かれています。暗闇があるけれども、神が光となっているという流れです。

1C 悪い者の支配

暗闇は、神に反逆したサタンによって、悪が支配することを示しています。使徒ヨハネは言いました、「Iヨハ 5:19 私たちは神に属していますが、世全体は悪い者の支配下にあることを、私たちは知っています。」それでゲヘナ、地獄に悪魔が投げ込まれた後の世界では、もはや暗闇がなくなっているのです。

2C 神の介入

イエス様は、ヨハネによる福音書で、何度となくご自身が暗闇の中の光であることを語られました。「8:12 わたしは世の光です。わたしに従う者は、決して闇の中を歩むことがなく、いのちの光を持ちます。」そして、ご自身が世から取り去られる時が来ることを思って、こう言われました。「9:4-5 わたしたちは、わたしの遣わされた方のわざを、昼のうちに行わなければなりません。だれも働くことができない夜が来ます。」そして、ご自身が光であるとして、光を信じなさいと勧めます。「ヨハ 12:35-36 もうしばらく、光はあなたがたの間にあります。闇があなたがたを襲うことがないように、あなたがたは光があるうちに歩きなさい。闇の中を歩く者は、自分がどこに行くのか分かりません。自分に光があるうちに、光の子どもとなるように、光を信じなさい。」

2B 光の働き

1C イエスについてくる者

イエス様が光であられて、闇の中に輝いておられて、それでそこに来る者も、光の子どもになるのだということです。イエス様の付いてくるものは、その光の中にいるので、それが外に出て自分自身が光となるということです。パウロがイエス様から語られました。「使 26:18 それは彼らの目を開いて、闇から光に、サタンの支配から神に立ち返らせ、こうしてわたしを信じる信仰によって、彼らが罪の赦しを得て、聖なるものとされた人々とともに相続にあずかるためである。」ヨハネ第一には、こうあります。「1:7 もし私たちが、神が光の中におられるように、光の中を歩んでいるなら、互いに交わりを持ち、御子イエスの血がすべての罪から私たちをきよめてくださいます。」イエス様が、「**あなたがたは世の光です。**」と言われたのは、ご自身の中に生きる者たちが、ご自身の光を放っているのだと言われています。

2C 闇の行いの暴露

光は、どのようなことをするのでしょうか？それは、闇を闇として明らかにしてしまうことです。自分たちのしていることが、光によって明らかにされて、それが悪であることを知らされることです。「エペ 5:8-13 あなたがたは以前は闇でしたが、今は、主にあつて光となりました。光の子どもとして歩みなさい。あらゆる善意と正義と真実のうちに、光は実を結ぶのです。何が主に喜ばれること

なのかを吟味しなさい。実を結ばない暗闇のわざに加わらず、むしろ、それを明るみに出しなさい。彼らがひそかに行っていることは、口にするのも恥ずかしいことなのです。しかし、すべてのものは光によって明るみに引き出され、明らかにされます。」ですから、私たちが光の中を歩もうとすると、反発が来るのです。暗闇のわざを見せてしまいます。隠れてやっていたものが、露わにされるので、反発したり、反抗するのです。

3C 救い主の啓示

けれども、悪いことを悪いこととして明らかにするだけではありません。イエス様の光は、まさにあなたがたを裁くために来たのではない、救うために来たのだということを知らせる光でもあるのです。「ヨハ 3:17-21 神が御子を世に遣わされたのは、世をさばくためではなく、御子によって世が救われるためである。御子を信じる者はさばかれぬ。信じない者はすでにさばかれている。神のひとり子の名を信じなかつたからである。そのさばきとは、光が世に来ているのに、自分の行いが悪いために、人々が光よりも闇を愛したことである。悪を行う者はみな、光を憎み、その行いが明るみに出されることを恐れて、光の方に来ない。しかし、真理を行う者は、その行いが神にあってなされたことが明らかになるように、光の方に来る。」イエス様のことが紹介されると、自分の悪い行いが明らかにされます。その時に、自らへりくだって、その罪を認め、イエス様の十字架にある罪の赦しを求めるならば、主は罪のすべてを清めてくださいます。しかし、その悪を愛して、そのまま行いたいと願うならば、光の方にこようとしません。

3B 隠れない光

そういうことで、私たちは世の光ですが、ここでイエス様が強調されているのは、「隠さない」ということです。「14・・・山の上にある町は隠れることができません。15 また、明かりをともして升の下に置いたりしません。燭台の上に置きます。そうすれば、家にいるすべての人を照らします。16 このように、あなたがたの光を人々の前で輝かせなさい。」山の上にある町ですが、ガリラヤ湖に行くときすぐわかります。夜になると、湖の北側に光が灯してある部分があります。それはツファットという町で、ガリラヤ地方では最も高いところに位置します。光があれば、山の上にある町は隠れることは出来ません。光が灯してあるということは、つまり人々に照らすためなのです。

1C 恥としない福音

私たちがイエス様を信じるということは、それだけで光となって隠すことができません。パウロは、福音を恥としないと言いました。「ロマ 1:16 私は福音を恥としません。福音は、ユダヤ人をはじめギリシア人にも、信じるすべての人に救いをもたらす神の力です。」ご自身がクリスチャンであることを隠すことはできません。それは明らかにされるものなのです。ですから、自らがキリスト者であることを人々に、決心して明かしていく必要があります。そこに聖霊が働いてくださり、神がその証言を強めてくださいます。

2C 神への栄光

ここで大事なことは、自分が何だかということではなく、神があがめられることです。「人々があなたがたの良い行いを見て、天におられるあなたがたの父をあがめるようになるためです。」自分の良い行いなのですが、それは神から出ているので、人々は神をあがめるようになるのです。キリスト者が良い行いをする時、その人がすごいのではなく、神への飢え渴きが起こります。そして、神をあがめるようになるのです。神に栄光が与えられます。

3C 神からの報い

そして最後に、自分がそのように神をあがめるように人々に影響を与えたら、そのことについての報いも光として与えられます。神が光であられるように、その光によって自分自身も輝く報いを受けます。「ダニ 12:3 賢明な者たちは大空の輝きのように輝き、多くの者を義に導いた者は、世々限りなく、星のようになる。」そしてイエス様もこう言われました、「マタ 13:43 そのとき、正しい人たちは彼らの父の御国で太陽のように輝きます。」